

「第16回福岡デザインアワード」入賞

造形芸術学科2年 浦井 葉留香さん(中村学園女子高校)

浦井さんがラベルデザインしたアサヒ醸造株式の「まろやかしょうゆ」が「第16回福岡デザインアワード」で入賞しました。九産大経営学部が「国際ビジネス演習」の授業で、福岡県産醤油の消費拡大を目指し、企画販売促進を行うプロジェクトを実施。ラベルデザインを担当することになった浦井さんは当初「レトロでかわいいデザインを考えていましたが、企業の担当者から「まったく新しいものを」という要望があり、デザインを方向転換させました。まろやかしょうゆ」は、一般的な福岡県産醤油と異なり、米や大豆の麹だけで旨味を生み出しています。その商品特長を生かし、米と大豆を強調したシンボルマークと金色



「時間がない中で、デザインを仕上げるのは大変でしたが、とても勉強になりました」と浦井さん



デザインアワードの会場のパネルやディスプレイも学生たちの手で



黒と金を基調に高級感あるラベルデザイン。ボトルには、商品特長を紹介するタグを付けて、こだわりをアピール

と黒色による高級感あふれるデザインに仕上げました。「福岡デザインアワード」への出品に当たっては、会場でのディスプレイデザインも担当。米と大豆だけで作られていることを分かりやすく伝えようと、しょうゆのボトルの下には米と大豆を敷き詰めました。こうした努力が実り、浦井さんは見事入賞。「作っているときは、なかなかOKが出ず、大変だったこともありましたが、福岡デザインアワードという、プロの作品が集う中で賞をいただくことができ、頑張った良かったと思います」と笑顔で受賞の喜びを語りました。

「第6回御供所灯明コンテスト2014」優秀賞受賞

造形芸術学科2年 水田 葉々美さん(八女農業高校)

水田さんが、「第6回御供所灯明コンテスト2014」で、優秀賞を受賞しました。受賞作「night circus」は、サーカスのテントをイメージした、かわいらしい作品です。20点の応募作品は、昨年10月、博多区の承天寺通りに並べられ、温かみのある光で博多の街を彩りました。水田さんの作品は、一般の方の投票で審査され、「幻想的でステキ」夢が詰まっているよう」などの感想が寄せられました。

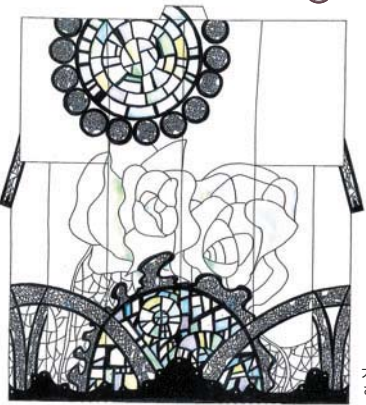


メルヘンで、かわいい雰囲気を漂わせる水田さんの作品「night circus」

「第18回全国きものデザインコンクール」で3名の学生が入賞

造形芸術学科 1年 黒田 優衣さん(香椎高校)
1年 鄭 智媛さん(中国出身)
2年 大塚 円佳さん(熊本信愛女学院高校)

「第18回全国きものデザインコンクール」(一般/手描の部)で、黒田さん、鄭さん、大塚さんが入賞しました。このコンクールは、経済産業省や文化庁、京都府などの後援により、全国染織連合会が主催するものです。学生たちの作品は、自由な発想による楽しいデザインで、着物の可能性を提案しています。



大胆な構図の黒田さんのデザイン

「第5回福岡アジア美術トリエンナーレ2014」のアート作品づくりに協力

1年生を中心とした学生グループが、小田部教授、黄准教授、沈講師の引率のもと、学外アートプロジェクトとして、昨年9月6日(土)〜11月30日(日)に福岡アジア美術館で開催された「第5回福岡アジア美術トリエンナーレ2014」の作品制作のボランティアを行いました。

学生たちが携わったのは、パキスタンの球体作家のメヘリン・ムルターザさんとザルを使ったアート作品で有名な韓国のチェジョンファさんを中心とした、多くの作家たちの作品づくりです。学生たちは、作家の指示を受けながら、球体に着色したり、作品のパーツを作ったりと制作に取り組みました。最終的な作品の形が分からない状態でパーツを作るのは、根気のいる作業でしたが、日を追うごとに、パーツから作品へと組み上がっていく過程を目の当たりにするのは、学生たちにとって感動的な体験となりました。学生たちからは、「着想力を養うことができるいい経験になった」「海外作家の話を聞くことができ勉強になった」などの感想の声が聞かれました。



自分たちが作ったパーツが、作品になっていくのは感動的な体験!

メヘリン・ムルターザさんと黄准教授、学生たち

平成26年度 第46回卒業制作展

九州造形短期大学卒業制作展を、2月3日(火)〜8日(日)まで、福岡市美術館で開催します。パリエティーあふれる学生たちの力作を展示しますので、ぜひお越しください。



昨年福岡市美術館で行われた卒業制作展の様子

「第8回志賀島金印まつり」で4基の砂像を制作

39人の学生たちが、昨年10月18日(土)・19日(日)に開催された「第8回志賀島金印まつり」で4基の砂像を制作しました。6回目となる今年度は、「学外アートプロジェクト」の授業として取り組み、公開制作を行いました。目の前で作り上げられていく見事な砂像に、祭の参加者からは感嘆の声が上がっていました。学生たちも、作品を制作することによって、多くの人に喜んでもらえることに気づき、制作意欲を高めていました。



訪れた方からは「すごいですね」「どうやって作るんですか」などの感想がありました